

第 16 回 CPD WG 委員会議事録（案）

日時：平成 21 年 7 月 3 日（金） 9:30～12:00

場所：日本工学会事務所（港区芝 5-26-20 建築会館 6 階）

出席者（順不同、敬称略）：

主査 関田 真澄（(社)日本冷凍空調学会 事務局長）

委員 伊藤 政人（(株)大林組東京本社技術本部研究開発管理部、土木管理課長、
土木分野）

片山 功三（(社)土木学会 技術推進機構長、土木分野）

木村 軍司（首都大学東京 名誉教授、電気分野）

児玉 公信（(株)情報システム総研 取締役副社長、情報分野）

武田 裕久（(株)電業社機械製作所 上席執行役員、機械部門）

永田 一良（日立製作所研究開発本部 技術主管、日本技術士会）

山本 誠（東京理科大学工学部機械工学科 教授、機械分野）

担当理事 橋谷 元由（(社)化学工学会人材育成センター 部長）

事務局 柳川隆之

配布資料：

CPD09-16-1：第 15 回 CPD WG 会合議事録（案）

CPD09-16-2：日本工学会 CPD ガイドライン（案）（片山委員）

CPD09-16-3：ガイドライン本体に対する木村委員からの意見（木村委員）

CPD09-16-4：個別ガイドラインに対する木村委員からの意見（木村委員）

CPD09-16-5：日本技術士会 CPD の目指す方向（永田委員）

CPD09-16-6：日本工学会 CPD ガイドライン（案）（関田主査）

議 事：

1. 前回議事録確認

6 月 4 日に開催された第 15 回 WG 会合の議事録が確認された。

2. ガイドライン本体の審議

ガイドライン本体について、委員からのコメントに基づいて関田主査が作成した改定案と片山委員から提出された改定案をつき合わせて内容の審議が行われた。審議の結果、片山案に次の修正を加えたものを最終案とすることが決定された。

1) 「1. 定義(2)」の下から 2 行目に、「② 実務を通じた活動：プロジェクトリーダ業務、特許取得など」を入れる。それに伴って、現在の②を③とする。

2) 「1. 定義(5)」の下から 1 行目の「情報系 CPD 協議会」のあとに、機械系協議会名として「、CPD 連絡会（機械系）など」を加える。ただし、追加する機械系の協議会の正式名称は山本委員が確認する。

3) 「1. 定義(12)」の第 3 行目の第 1 文を「CPD ポイントあるいは 1CPD 時間とする。」とする。また、最後に「時間で表せないものは別途学協会が定めたルールに従う。」という文章を加える。

4) 「2. CPD 記録の取扱い(1)」の第 2 行目は「CPD プログラム提供学協会は…」とする。また、最後の行は「(参照：CPD 記録ガイドライン)」とする。

5) 「2. CPD 記録の取扱い(2)」の第 2 行目は「CPD プログラム提供学協会は、受講者

の求めに応じて CPD 受講証明書を発行する。」とする。

6) 「2. CPD 記録の取扱い」の最後に次の項を加える。

「(3) 受講証明の代替

CPD プログラム提供学協会は、CPD 受講証明書をはっこうすることで、CPD 記録に代えることができる。」

7) 「5. CPD の促進(1)」の下から 2 行目は「また、CPD 協議会は、会員学協会が提供する…」とする。

8) 「5. CPD の促進(2)」の上から 5 行目は「き CPD 活動のあり方…」とする。

9) 「6. 学協会が CPD を推進する意義」の最後の行は「者の育成に実質的に貢献することが…」とする。

また、桑原協議会長からガイドラインに盛り込むことが提案された事項は第 6 項「学協会が CPD を推進する意義」の部分に入れることとし、文案は関田主査が次回に提案することになった。

また、民間業者のプログラムの扱いについて意見交換が行われ、当面は学協会のプログラムだけを対象にする（橋谷理事）、民間のものでも良いものは排除しないがプログラム認定は行うべきである（片山委員）、という意見がでた。

3. 個別ガイドラインの審議

木村委員から提出された「CPD 記録登録ガイドライン」の修正案をもとに審議が行われた。表題を「CPD 記録ガイドライン」とすること、第 1 項 f) の「自己学習型」と第 1 項 d) 全体を削除することが決まった。また、「プログラム提供学協会に保存すべき CPD 記録」の文章中で以下のように修正すること、

1 行目：工学系学協会 ⇒ 会員学協会

6 行目：参加学協会 ⇒ 会員学協会

および、保存すべき CPD 記録の項目に「講師名」を追加することが決まった。

また、児玉委員から、将来の変更に強く、長年にわたる使用に耐えるためには、データ設計をうまく行う必要がある、特に第 2 項のホーム学協会に送るべき CPD 記録の部分が問題であるとの指摘がなされ、次回に同委員から修正案を提示してもらうことになった。

さらに、第 2 項については、現在は受講者がプログラム提供学会に証明書を持ってきて印を押してもらっており、ホーム学協会にデータを送ることはやっていないという意見（片山委員）や、記録の保存はあくまでも本人の責任であるという意見（武田委員）が出され、第 2 項はプログラム提供学協会が発行する受講証明書とする案を検討することになった。また、第 3 項の共通コードは使用される見込みがないため、削除することになった。

4. ポータルサイトの進め方

永田委員から、日本工学会の CPD 協議会が何を狙っているか早期に外に示す必要があるという指摘がなされ、参考として日本技術士会の目指す方向を示した文書が紹介された。その中で、ポータルサイト提供を 5 段階に分けて進める案が提案された。このうちの第 1 ステップ（会員学協会の CPD のページにリンクを張る。）が実現可能であるとの意見（橋谷委員）、コンテンツのメンテナンスを容易にしておくことが大切であるとの意見（武田委員）が出された。

今後の進め方として、橋谷理事から、WG 全体で議論するより小グループを作ってそこで案をまとめてはどうか、そのグループには特に児玉委員に入ってもらおうとよいとの提案がなされた。この点は次回の最初の議題として議論することになった。

次回を 8 月 4 日（火）15:00-17:00 に日本工学会事務所で開催することにした。

以上